

2019 員 リスト

■浅野倫子

<論文> (いずれも査読あり)

Uno, K., Asano, M., Kadowaki, H., & Yokosawa, K. (in press). Grapheme-color associations can transfer to novel graphemes when synesthetic colors function as grapheme “discriminating markers”. *Psychonomic Bulletin & Review*. doi:10.3758/s13423-020-01732-9

Saji, N., Imai, M., & Asano, M. (2020). Acquisition of the meaning of the word *orange* requires understanding of the meanings of *red*, *pink*, and *purple*: Constructing a lexicon as a connected system. *Cognitive Science*, 44, e12813. doi: 10.1111/cogs.12813

Asano, M., Takahashi, S., Tsushiro, T., & Yokosawa, K. (2019). Synaesthetic colour associations for Japanese Kanji characters: from the perspective of grapheme learning. *Philosophical Transactions of the Royal Society B*, 374: 20180349. doi: 10.1098/rstb.2018.0349

・ 倫子 ・ 2019 . ネガティブな反すうと内向き 外向き分割
との . 学 , 27(1), 20-30. doi: 10.4092/jsre.27.1_20

井 一 ・ 一 ・ 倫子 2019 . 共 が すかな 字 と の 付けとそ
の 則 . 学, 26(4), 426-439. doi: 10.11225/jcss.26.426

倉 ・ 信 也 ・ 倫子 ・ 一 2019 . 化 な え が 嗜好に与える
. 基 学 , 38(1), 26-32. doi:10.14947/psychono.38.4

Yang, J., Asano, M., Kanazawa, S., Yamaguchi, M. K., & Imai, M. (2019). Sound symbolism processing is lateralized to the right temporal region in the prelinguistic infant brain. *Scientific Reports*, 9, Article number: 13435, 1-10. doi:10.1038/s41598-019-49917-0

<依頼講演>

倫子 (2020). 字共 と 字と学 の びつき. 基 学会 2019
2回フォーラム「共 と 報処」, (2020 1 25).

倫子 (2019). 字共 とそのメカニズム. 11回多 会チュートリアル
, 京 (2019 12 14 -15).

倫子 (2019). 共 における 字 づけのダイナミクス. 学 会「
ダイナミクスの可 化と制」, 2019 7 16 .

<学会発表> (いずれも査読なし)

, 倫子. (2019). 報の が コンテンツに する 入 に与える
. 基 学会 38回大会 (2019 11 30).

倫子 ・ 太 ・ 口 子 ・ (2019). の ストレスにおけ
る 学 および主 と 制 との 係 に する .
学会 83回大会, 2D-046, 大 (2019 9 12).

■

作

『すべてはつねに別のものである——〈体 - 争〉——』、出
、2019 8 、全 262

_____「一冊の は を しうるか 保亘『スピノザ——力の存在 と の 哲学』、 大学出 、 2019 」、図 、 3401号、2019 6 1 、 4

合 会
_____『スピノザ『エチカ』 —— 判と創 の のために』 大学出 、 2019 、主催 スピノザ協会、上 修 司会 、 、 井 史 コメンテーター 、 京大学・ キャンパス、2019 9 8

_____「〈 判 〉の並 について——『 味の 学』における一 の 」、『 味の 学』出 50周 別企 「『 味の 学』を 変 する」、主催 大学 化学 倉 室、ドゥルーズ・ガタリ・ラボラトリ、 塾大学・三 キャンパス、2019 12 7

その他 の 国
존재와 차이 들뢰즈의 선형적 경험론 에가와 다카오 저/이규원 역|그린비|2019년 1월 리좀(RHIZOME)총서- II-06 原 _____『存在と ——ドゥルーズの 』、 、 2003

죽음의 철학 에가와 다카오 저/이규원 역|그린비|2019년 12월 리좀((RHIZOME)총서-II-08 原 _____『 의 哲学』、 出 、 2005

■大 二

論文

典・ _____・大 二 2019 人 係スキルを含む 動コンサルタント トレーニング-コンサルテーションスキルの およびコンサルティによる 価の から— 学 56(4) 219-230 2018 12 31

中内 _____・ _____・ 孝 ・ 亜 ・ _____ 季・大 二 2019 児 の 出と実 の 動 価— を促 するために— 学園 大 学 叢 51 1-11 2019 2 28

中内 _____・ _____ 利子・大 二 2019 ミラーリング きによる スペクトラ ム 児の 人 動の促 41(1) 72-79 2019 5 31

大 二 2019 スペクトラム 児における 会 健 をめぐる —わが国の にもとづく の と 人 係学 24(1) 25-32 2019 12 28

大 二 2020 わが国における学 を 台とする な 動 SWPBIS の 在 41(3) 193-195 2019 11 30

季・ _____・ 孝 ・ _____・大 二 2019 スペクトラム 児 の他 促 に する 動分 介入— “ 動 実 Hot EF ”に した 会 報処 善プログラムの — 学 セ ンター 33 153-157 2020 3 31

<著書>(を含む
 動分 学会 2019 動分 学事典 大 二 「セルフ・コントロール
 ル 制 」 「 動コンサルテーション」 丸善出 2019 4 30
 刊

大 二 2019 ビジュアルブック ASD の君へーラクな ちになるためのヒン
 ト — Shaul, J. 2019 The ASD Feel Better Book: A Visual Guide to Help Brain
 and Body for Children on the Autism Spectrum Disorder 学 2019 5 1
 刊

大 二 修 2020 先 のための保 ハンドブッカー を する子どもの保
 とつながる つの — 学 2020 1 20 刊

<学会発表>

子・加 ・ 中 子・ 宏・安 ・ 大 二 ・ 中
 一 2019 地域の における多 シリーズ 初の を
 うことの 味を多 の から問う 学会 54回 大
 会 学会企 シンポジウム

大 二 2019 スペクトラム ASD 児のストレスを低 するために—唾
 コルチゾール の 定による 価のみ 予備 — 学会
 57回大会 大学 キャンパス P11-38

下 ・ 健二・ 太 ・大 二 2019 が主体 に学ぶ づくり
 の実 学会 57回大会 大学 キャンパス 主シ
 ンポジウム 3-10

亜 ・大 二 2019 字における力加 の に を てた介入の
 学会 57回大会 大学 キャンパス P15-36

出 ・ 亜 ・ 圭 ・大 二 2019 児の ・
 定を促す 件の 学会 57回大会 大学 キャン
 パス P7-29

圭 ・ 亜 ・出 ・大 二 2019 児の会 動の に
 する の 学会 57回大会 大学 キャン
 パス P7-28

・大 二 2019 ソーシャルストーリーTMを いた での —ペアレ
 ント・トレーニングとの — 学会 57回大会 大学
 キャンパス P6-17

元 ・大 二 2019 傲が 化に及ぼす の 価— スペクト
 ラム 児を として— 学会 57回大会 大学 キヤ
 ンパス P5-23

也・大 二 2019 スペクトラム 傾向を つ大学 の —
 「 価値 」を とする分 — 学会 57回大会 大学
 キャンパス P5-26

- ・大 二 2019 児 において児 の い反 を き出す 因
 の 一 わりの をどのようにアセスメントするか— 学会
 57 回大会 大学 キャンパス P6-12
- 吉 ・大 二 2019 傾向のある人の周囲にいる人の わり の
 学会 57 回大会 大学 キャンパス P6-11
- ・大 二 2019 児をもつ の 児ストレス を して
 一 に したペアレント・トレーニング— 学会 57 回大
 会 大学 キャンパス P6-10
- 也・大 二・井 太 2019 児への 互交 型 による問
 動低 の 一ペアレント・トレーニングとの 一 学会 57
 回大会 大学 キャンパス P5-27
- 和 ・大 二 2019 児における命 化の促 (1)
 学会 57 回大会 大学 キャンパス P6-9
- 孝 ・ 季・ 亜 ・大 二 2019 スペクトラム 児の分 動
 に する 一 人 場 における分 動の の増加— 学会
 57 回大会 大学 キャンパス P5-25

■大 久

- 二宮克 ・大 久・ ・安 嘉奈子 2019
 学における出 のあり を える 大会 備委員会企 シンポジウム
 学会大会 27,20-22.
- 大 久 2020 アイデンティティ 再 34 ,1-16.
 あり

■ 口孝司

- 学 あり
 Kawakubo, A., & Oguchi, T. (in press). Happy Memories: Improved Subjective Happiness through Vacation Recollection. *Tourism Analysis*
- Kawakubo, A., & Oguchi, T. (2019). Recovery experiences during vacations promote life satisfaction through creative behavior. *Tourism Management Perspectives, 30*, 240-250.
- Kawakubo, A., Bryant, B. F., Miyakawa, E., & Oguchi, T. (2019). Development and Validation of the Japanese version of the Savoring Beliefs Inventory (SBI-J). *Journal of Positive Psychology and Wellbeing, 3*, 119-136.
- Miyakawa, E., Kawakubo, A., & Oguchi, T. (2019). Do People Who Travel More Perform Better at Work? *International Journal of Tourism Research, 21*, 427-436.

宮 えりか・口孝司 (2020) 外修学 がもたらす 効 一 修学
を とした から一 国 光学会 , 27, 73-81.

学会 国 学会、 あり

Miyakawa, E., Jose, E. P., Bryant, B. F., & Oguchi, T. Investigating gender and age difference of savoring strategies among Japanese adults. 6th World Congress on Positive Psychology, Melbourne, Australia. (20 July, 2019)

Kawakubo, A., & Oguchi, T. Effects of memorable tourism experiences on well-being via daily recovery experiences. 25th Asia Pacific Tourism Conference, Da Nang, Vietnam. (2 July, 2019)

Miyakawa, E., & Oguchi, T. Family tourism elevates children's skill and parent's well-being. 25th Asia Pacific Tourism Conference, Da Nang, Vietnam. (2 July, 2019)

Kawakubo, A., & Oguchi, T. The role of savoring positive experiences: Effects of savoring beliefs on psychological well-being after vacation. 21st Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, New Orleans, U.S.A. (February, 2020, , パンデミックにより 中)

学会 国内学会、 なし

宮 えりか・口孝司 休みへの がリカバリー および well-being に及ぼす
会 学会 60 回大会(2019 11 10 , 大学)

宮 えりか・口孝司 外修学 がもたらす 効 国 光学会 23
回全国大会(2019 10 19 , 大学)

宮 えりか・口孝司 労 の余 動が well-being に及ぼす .
学会 35 回大会(2019 8 31 , 大学)

その他 なし

口孝司 (2019) 学で「 のチカラ」を し の 化へ HIS Group Corporate Report 2020, 47.

■加 千

下 信 任 、加 千 ほか 『中国 史』 増 一 、2019
3 31 、 24 27 学 助 事 学 助 基 助 基
「 の およびその 史 に する 合 」
:24520046 代 : 學 大学・ 下 信

口

加 千 「 内丹修 」2019 6 28 、 台 ・ 大
学、 代 亜 化 國 學

加 千 「《 》來 」2019 10 25 、 台 ・ 修 大学、2019 宗
命 國 學 一宗 人 命哲學

加 千 「 丹 作 一以《 内 》 中 」、2019 11 23 、
台 ・ 大学、 五回「 」學 一内丹

加 千 「 体宇宙の 五 一 丹 を中 に」、2019 11 23 、 タワーホー
ル 堀、 47 回 伝 学会学 大会— 京大会—

■Kavanagh, Christopher

Kavanagh, C., Kapitány, R., Eka Putra, I., and Whitehouse, H. (*in press*) Exploring the pathways between transformative group experiences and identity fusion. *Frontiers in Psychology: Personality & Social Psychology*. [Advance publication version available at: <https://www.frontiersin.org/articles/10.3389/fpsyg.2020.01172/abstract>].

Kavanagh, C., Jong, J., Whitehouse, H. (*in press*) Ritual and religion as social technologies of cooperation. In Laurence J. Kirmayer, Shinobu Kitayama, Carol M. Worthman, Robert Lemelson, & Constance A. Cummings (Eds.) *Culture, Mind, Brain: Emerging Concepts, Models, Applications* (Chapter 11). Cambridge University Press: Cambridge.

Whitehouse, H., & Kavanagh, C. (*in press*) What is the role of ritual in binding communities together? In Justin Barrett (Ed.) *Handbook of the Cognitive Science of Religion*. Oxford University Press: Oxford.

Kavanagh, C., & Jong, J. (2020). Is Japan Religious? *Journal for the Study of Religion, Nature and Culture*. Vol. 14 (1). [Preprint available at: <https://doi.org/10.31234/osf.io/qyt95>]

Yustisia, W., Putra, I.E., Kavanagh, C., Whitehouse, H. & Rufaidah, A. (2020) The role of religious fundamentalism and tightness-looseness in promoting collective narcissism and extreme group behavior. *Psychology of Religion and Spirituality*, 12(2), 231-240. <http://dx.doi.org/10.1037/rel0000269>
<https://psycnet.apa.org/fulltext/2019-22199-001.html>

Kapitány, R., Kavanagh, C., Buhrmester, M. D., Newson, M., & Whitehouse, H. (2020). Ritual, identity fusion, and the inauguration of president Trump: a pseudo-experiment of ritual modes theory. *Self and Identity*, 19(3), 293-323. <https://doi.org/10.1080/15298868.2019.1578686>

Jong, J., Halberstadt, J., Bluemke, M., Kavanagh, C., & Jackson, C. (2019). Death anxiety, exposure to death, mortuary preferences, and religiosity in five countries. *Scientific Data*, 6, 154. <https://doi.org/10.1038/s41597-019-0163-x>

事

Kavanagh, C. (2019) Review: *Conjuring Asia: Magi, Orientalism and the Making of the Modern World* by Chris Goto-Jones. *Pacific Affairs*, 92(3), 553-555.

学会

Kavanagh, C. (Nov 2019) The Importance of Rituals (& Replications): Quasi-experimental evidence from Japanese Firewalking Festivals. [Presentation] *The 23rd Experimental Social Science Conference*. Meiji Gakuen University, Tokyo, Japan.

Kavanagh, C. (Sep 2019) [Invited Respondent] *Preservation of Kagura Performance Workshop, Citizen Orientated Digital Archive of Myths and Archaeology Project*. Shimane, Japan.

Kavanagh, C. (Sep 2019) Key Issues in Researching Religion in Japan.

[Presentation] *Symposium on Cognitive and Computational Approaches Religion and Folklore Studies*, Rikkyo University, Tokyo, Japan.

助
 Topic: *The Consequences of Formal Education for Science and Religion in Japan*
 Role: Principal Investigator
 Grant: The Consequences of Formal Education for Science and Religion
 Amount: \$150,000
 Year(s) funded: 2020-2023

■ 嘉

Yano, K., Kase, T., & Oishi, K. (in press). Sensory processing sensitivity moderates the relationships between life skills and depressive tendencies in university students. *Japanese Psychological Research*, 62.

嘉 _____ ・ 上 _____ ・ 好 _____ ・ 大 和 _____ 印刷中 _____ い Sense of Coherence を つ
 の _____ における問 _____ への 処にかかわる 動や _____ の _____ テキスト分
 による _____ — ストレス 学 _____ 31

嘉 _____ ・ 上 _____ 2019 Sense of Coherence による _____ 健 _____ の _____ ・ _____ 予
 可 _____ の _____ 回 _____ モデルと— 化加 _____ モデルによる _____ 定— パーソナリテ
 イ _____ 28 175-178

Yano, K., Kase, T., & Oishi, K. (2019). The effects of sensory-processing sensitivity and sense of coherence on depressive symptoms in university students. *Health Psychology Open*, 6, 1-5.

Kase, T., Ueno, Y., Shimamoto, K., & Oishi, K. (2019). Causal relationships between sense of coherence and life skills: Examining the short-term longitudinal data of Japanese youths. *Mental Health & Prevention*, 13, 14-20. _____ あり

嘉 _____ ・ 上 _____ ・ 下司 _____ 大 _____ 2019 Dark Triad のライフスキルに _____ する _____ —反
 会 _____ な _____ の _____ 不 _____ 側 _____ に _____ する _____ — パーソナリテ
 27 266-269 _____ あり

Kase, T., Ueno, Y., & Oishi, K. (2018). The overlap of sense of coherence and the Big Five personality traits: A confirmatory study. *Health Psychology Open*, 5, 1-4. _____ あり

嘉 _____ ・ 上 _____ ・ 内大 _____ ・ 好 _____ 2018 パーソナリティ・プロトタイプに
 おける Resilients, Overcontrollers, Undercontrollers およびその他のタイプの _____ —ラ
 イフスキルの _____ 低に基づいた _____ — パーソナリティ _____ 27 164-167 _____ あ
 り

介 ・ 嘉 _____ ・ 大 和 _____ 2018 共 _____ の _____ の作 _____ および _____ 健 _____ との
 学会 _____ 69 439-447 _____ あり

学会

Yano, K., Kase, T., Oishi, K. (2020). Reinvestigating the relationships between sensory processing sensitivity and life skills among Japanese samples. *Society for Personality and Social Psychology 2020 Annual Convention* 2020 2 29

啓・和壮太・嘉_____・今井_____・ケ典・井一 2019 健
再 その3—大学 の から る SOC の 可 — 健
学会 32回大会 2019 9 28

和・嘉_____・_____一・口修 2019 「やる」とマインドワンダリ
ングの 係 _____学会 83回大会 2019 9 13

和壮太・今井_____・啓・嘉_____・優子 2019 健 再 その
2—健 _____の と 学 の — 学会 83回大会
2019 9 13

Yano, K., Kase, T., & Oishi, K. (2019). Sense of Coherence moderates the relationship between sensory-processing sensitivity and depressive tendency. *The Society for Personality and Social Psychology's Annual Convention 2019* 2019 2 8

嘉_____・奇二_____・孝 2018 体 の多 を 定する Survey for
Nature Experience 2 の _____トランスパーソナル 学 医学会 19回
学 大会 2018 12 24

嘉_____ 2018 パーソナリティ・プロトタイプとその —健 場 における
による分 の についての — — 団 人 学 保健学会 65
回学 大会 2018 12 2

嘉_____ 2018 人スキルは 人場 における 判 _____の使 判 に わるか
会 学会 59回大会 2018 8 28

嘉_____・上_____ 2018 パーソナリティとライフキャリア・レジリエンスの 係
—パーソナリティ・プロトタイプの から— パーソナリティ 学会 27
回大会 2018 8 26

Kiji, M., Kase, T., & Nigorikawa, T. (2018). Effects of star watching experiences on the sense of human's spirituality and on other psychological factors. *23th annual congress of the European College of Sport Science* 2018 7 5

嘉_____・上_____・大 和 2018 _____のライフキャリア・レジリエ
スに する の 健 学会 31回大会 2018 6 23

■ 和

あり

Kawagoe, T., Kihara, K., & Teramoto, W. (2020). Eastern observers cannot inhibit their gaze to eye and nose regions in face perception. *Consciousness and Cognition*, 79: 102881.

Kawagoe, T., Onoda, K., & Yamaguchi, S. (2019). The neural correlates of “mind blanking”: When the mind goes away. *Human Brain Mapping*, 40:17, 4934-4940.

Nagase, A.M., Kawagoe, T., Yamaguchi, S., & Morita, K. (2019). Behavioral mechanisms for adaptive learned avoidance of mental effort. *Clinical Neurophysiology*, 130:10, e217-e218

なし
口修 ・ 一・ 吉宏 ・ 和 (2019). アパシーに わる ネットワー
ク. 学, 21:1, 60-66,

和 (2019). 安 fMRI の基 と の実 . 『 と 会包 会』
学セミナー, 京 大学大学 合 存学 , 京

学会
和 (2019) マインドワンダリングとマインドフルネス. 基 学会多
会ワークショップ, 大学, 京

Sugimoto, H., Kawagoe, T., & Otake-Matsuura, M. (2019). Resting State Functional Connectivity Patterns in Older Adults after the PICMOR Intervention Program: A Preliminary Report. The 49th Annual Meeting of the Society for Neuroscience, McCormick Place, Chicago

Kawagoe, T., Kihara, K., & Teramoto, W. (2019). Easterners cannot inhibit fixations to nose region in face. Asia Pacific Conference on Vision, Ritsumeikan University, Osaka

和・嘉 ・ 一・ 口修 . (2019) 「やる 」とマインドワンダリング
の 係. 学会 83 回大会, 命 大学, 大 .

和 (2019) 動 づけの 基 . 学会 83 回大会シンポジウム, 命 大
学, 大 .

■ 史

学会

Tsuzuki, T., & Chiba, I. (2019). A time-series saccades analysis of the attraction and compromise effects based on the final decision in multi-alternative decision making. *Subjective Probability, Utility, and Decision Making (SPUDM) 2019 (The European Association for Decision Making)*, Amsterdam, Netherlands (August 21, 2019).

Shimane, D., Tsuzuki, T., & Itoh, Y. (2019). Awareness of emotional stimuli in a video: Suppressed memory of the video. *Annual Conference of the European Association of Psychology and Law (EAPL) 2019*, Santiago de Compostela, Spain (July 19, 2019).

あり

Tsuzuki, T., Takeda, Y., & Chiba, I. (2019). Effortful processing reduces the attraction effect in multi-alternative decision making: An electrophysiological study using a task-irrelevant probe technique. *Frontiers in Psychology*, 10: e00896. doi: 10.3389/fpsyg.2019.00896 (9 pages)

あり

史 (印刷中). 判 と 定 児 修 児 学の
2020 Vol. 59 子 pp. 51-82.

■中 之

・単
中 之『 のアーカイヴ—— の 史 』 京大学出 会、2019 7
、全 390 。

・ 事・単
中 之「作 の と 客の 、そして作品の の ——『 のアーカイヴ』刊 に
せて」、『UP』48 10号、 京大学出 会、7-12 、2019 10 依 。

■ 太

学会 国 学会
Suzuishi, Y., Kuroki, S., Hidaka, S. Effects of visual motion on tactile roughness perception do
not appear with passive dynamic touch. IEEE World Haptics Conference 2019 (July, 11,
2019, Tokyo)

学会 国内学会
太・Luigi Tamè・Matthew R. Longo. 仮 動 上で じる マスキング.
基 学会 38回大会 (2019 11 30 , 大学)

介・ 太.受動 における さ は 動 報によって変化しな
い. 基 学会 38回大会 (2019 11 30 , 大学)

太・Luigi Tamè・Matthew R. Longo. の で じる 刺 に する の
. 学会 83回大会 (2019 9 11 , 命 大学)

■安 みどり

分 執
安 みどり (2019).医 係 健 学会 健 学事典
pp.38-39.丸善出 2019 10 刊

■坂 季

<論文>
中内 ・ 孝 ・ 亜 ・ (坂) 季・大 二 2019
- 児の 出と実 の 動 価— を促 するために— 学園
大学 叢 51 1-11 2019 2 28

坂 季・ 孝 ・ 大 二 印刷中 スペクトラム
児の他 促 に する 動分 介入— “ 動 実 Hot EF ”
に した 会 報処 善プログラムの — 学
センター

<著書>(を含む
大 二 2019 ビジュアルブック ASD の君へラクな ちになるためのヒント — Shaul, J. 2019 The ASD Feel Better Book: A Visual Guide to Help Brain and Body for Children on the Autism Spectrum Disorder 学 . 坂 季
「その ラクな 分とイヤな 分」, 「その 呼吸をするときのちょっとしたコツ」 2019 5 1 刊

<学会発表>
孝 ・ (坂) 季 ・ 亜 ・ 大 二 2019 スペクトラム 児の分
動に する — 人 場 における分 動の の増加—
学会 57 回大会 大学 キャンパス P5-25

■ 内亜

<論文>
中内 ・ ・ 孝 ・ 亜 ・ 季 ・ 大 二 2019 児
の 出と実 の 動 価— を促 するために— 学園 大
学 叢 51 1-11 2019 2 28

<著書>(を含む
大 二 2019 ビジュアルブック ASD の君へラクな ちになるためのヒント — 亜 まえがき・はじめに Shaul, J. 2019 The ASD Feel Better Book: A Visual Guide to Help Brain and Body for Children on the Autism Spectrum Disorder 学 2019 5 1 刊

亜 2019 . のある が “実 ” をもとに もりをマネジメ
ントする.実 児 1 号 22-25. 2019 12 16 刊

》 亜 ・ なつ ・ 2020 .先 のための保 ハンドブッケー
を する子どもの保 とつながる つの — 大 二 修 学
2020 1 20 刊

<学会発表>
信・井 信三・五十 一 ・ 太 ・ 五味 一 ・ ・ 多佳実・ 亜
二 2019 . 児へのセルフ・マネジメントによる 4.
学会 57 回大会 大学 キャンパス 主シンポジウ
ム 4-7

亜 ・ 大 二 2019 字における力加 の に を てた介入の
学会 57 回大会 大学 キャンパス P15-36

出 ・ 亜 ・ 圭 ・ 大 二 2019 児の ・
定を促す 件の 学会 57 回大会 大学 キャン
パス P7-29

圭 ・ 亜 ・ 出 ・ 大 二 2019 児の会 動の に
する の 学会 57 回大会 大学 キャン
パス P7-28

孝・季・亜・大 二 2019 スペクトラム 児の分 動
に する ー 人 場 における分 動の の増加ー 学会
57 回大会 大学 キャンパス P5-25

■ 出

<学会発表>

出 圭・ 亜 ・ 圭 ・大 二 2019 児の
定を促す 件の 学会 57 回大会 大学 キャンパ
ス P7-29

圭 ・ 亜 ・ 出 圭 ・大 二 2019 児の会 動の に
する の 学会 57 回大会 大学 キャンパ
ス P7-28

■ 圭

<学会発表>

圭 ・ 亜 ・ 出 ・大 二 2019 児の会 動の に
する の 学会 57 回大会 大学 キャン
パス P7-28

出 ・ 亜 ・ 圭 ・大 二 2019 児の
定を促す 件の 学会 57 回大会 大学 キャン
パス P7-29